くすりのしおり

内服剤

2018年03月改訂

|  |
| --- |
| 薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。 |
| **商品名:ピオグリタゾン錠15mg「タナベ」****主成分:**ピオグリタゾン塩酸塩(Pioglitazone hydrochloride)**剤形:**白色～帯黄白色の錠剤、直径7.0mm、厚さ2.4mm**シート記載:**（表）ピオグリタゾン15mg「タナベ」、糖尿病用薬、ピオグリタゾン、TG60（裏）Pioglitazone 15mg、糖尿病用薬、ピオグリタゾン15mg「タナベ」 |  |
| **この薬の作用と効果について**インスリンが働きにくい状態（インスリン抵抗性）を改善し、肝臓での糖の産生を抑えたり、脂肪と筋肉において糖の取り込みを促進して、血糖値を下げます。通常、2型糖尿病の治療に用いられます。 |
| **次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。**・以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。心臓疾患およびその既往歴、ケトーシス、糖尿病性昏睡または前昏睡、1型糖尿病、肝臓疾患、腎臓疾患、重症感染症、手術前後、ケガをしている、脳下垂体異常、副腎疾患、十分な食事を摂取していない、衰弱している、激しい運動をしている、酒を大量に飲んでいる、膀胱がんまたは膀胱がんの既往、糖尿病性網膜症・妊娠中、妊娠している可能性があるまたは授乳中・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。 |
| **用法・用量（この薬の使い方）**・**あなたの用法・用量は((**:医療担当者記入**))**・通常、成人は1回1～2錠（ピオグリタゾンとして15～30mg）を1日1回朝食前または朝食後に服用します。性別・年齢・症状により適宜増減されますが、1日3錠（45mg）が上限です。インスリン製剤と併用する場合は、通常、成人は1回1錠（ピオグリタゾンとして15mg）を1日1回朝食前または朝食後に服用します。性別・年齢・症状により適宜増減されますが、1日2錠（30mg）が上限です。いずれの場合も、必ず指示された服用方法に従ってください。・飲み忘れた場合は、昼までであればできるだけ早く1回分を飲んでください。低血糖のおそれがあるので、激しい運動をした後や空腹時には飲まないでください。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。・誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。・医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めないでください。 |
| **生活上の注意**・指示された食事療法や運動療法をきちんと守ってください。・低血糖を起こす事がありますので、高所での作業や車の運転をする際には十分注意してください。・低血糖症状が起こった時には十分量の糖分（砂糖、ブドウ糖、清涼飲料水など）をとるようにしてください。α-グルコシダーゼ阻害剤（ボグリボースやアカルボースなどの糖分の吸収を遅らせる薬）と同時に服用中の方は、低血糖症状が起こった時にはブドウ糖をとるようにしてください。・この薬が膀胱がんの原因と断定されたわけではありませんが、外国において，この薬を使用した場合、その期間が長くなるにしたがって膀胱がんになる可能性が高くなるとの報告がありますので、この薬の使用中は定期的に尿検査などが行われます。血尿、頻尿、排尿時の痛みなどがあらわれたら、医師に相談してください。 |
| **この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）**副作用として、貧血、血圧上昇、動悸、胸部圧迫感、顔面潮紅、発疹、湿疹、かゆみ、吐き気・嘔吐、胃部不快感、胸やけ、腹痛、腹部膨満感、下痢、便秘、食欲亢進、食欲不振、めまい、ふらつき、頭痛、眠気、けん怠感、脱力感、しびれ、体重増加、糖尿病性網膜症の悪化、息切れなどが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。**まれに下記のような症状があらわれ、[　]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。****このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。**・むくみ、急激な体重増加、息切れ、動悸 [心不全]・むくみ、急激な体重増加 [浮腫]・食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる [肝機能障害・黄疸]・冷や汗がでる、空腹感、手足のふるえ [低血糖]・脱力感、筋肉痛、褐色の尿 [横紋筋融解症]**以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。** |
| **保管方法 その他**・乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。 |
| **医療担当者記入欄** 　　　　　　　　年　　　月　　　日 |

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。